

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471900678
法人名	有限会社 ライフサポートいずみ
事業所名	有限会社 ライフサポートいずみ
訪問調査日	平成21年3月12日
評価確定日	平成21年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1471900678
法人名	有限会社 ライフサポートいずみ
事業所名	有限会社 ライフサポートいずみ
所在地	238-0034 横須賀市金谷2-3-29 島貫ビル1階 (電話) 046-853-6236

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(平成21年 2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 10年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上2階、地下1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1200 円	

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	2	名	要介護4	4	名	
要介護5	2	名	要支援2		名	
年齢	平均	84.7歳	最低	68歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原医院、汐入メンタルクリニック、衣笠病院、ヨゼフ病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成10年1月に開所した施設で11年の実績がある。地下1階、地上2階建のビルの1階ワンフロアを改修し1ユニットのグループホームとなっている。他に先駆けたグループホームであるため、社長は函館の愛の里の研修に2週間参加後設立されたと言う。理念は基本的には利用者さん本位であり、その最も大切にしているものを「笑い穏やかさ」に置いている。それに沿って詳細に指針が示されていて、事務室に掲示されている。介護計画は担当者が原案を作成し、ケアマネジャーと話し合ってから決定し、評価・見直しをするサイクルを回している。担当制と個別ケアの推進により、利用者の希望に沿いたいと言う職員意向が強く、個別の外出をサポートする活動へと繋がっている。パーソン・センタード・ケア実現の例である。今年4月は介護保険法が改訂されることもあり、10年の節目を通過した年でもあり、ここにかもいの家とは風土も異なることもあり、来年度からの各々の理念の再構築を職員の手で行うことを企画し、1年間取り組んで来た。4月から新理念を各ホームで定め活動をスタートすることになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前述の如く、今年度は理念の見直しに取り組んだ。実施は4月からで、この1年をかけてカンファレンス、ミニカンファレンスを重ねようやく最終形が完成した。職員は現在の理念についての認識、評価などにつきアンケートを取り、それらをBS法によって纏める作業を重ねた。ご家族についても同様にBS法で記入して頂いたものを纏め、利用者にはテーマを紙に書いて張り出し、日常に職員が意見を聞き取るとともに社長は個別の面接を行った。これらにより出たご意見を反映して新理念が完成し実施の予定である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価をケアの客観的な見直しの場として真摯に受け止め日々の内容に生かすようにしている。今回も全員に自己評価を実施してもらった。自己評価を書くことで評価の意義を自覚し、自己のケアを振り返る機会を持ってもらうようにしている。このスタッフのレベルは高く、身体のケアは充分であり、既に心のケアの領域にも深く取り組んでいるが、チームとして共通の認識を持ってケア出来ることを狙っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は事業所会議を年4回、地域会議を年2回行うこととなり既に実施している。事業所会議は民生委員と、これに有識者として県立保健福祉大の先生を加えご家族が2名が参加している。事業所会議はテーマの決定が大切であるので、ホームの報告など通常の議題と併せ研修、見学などを交えた年間のテーマを決め実施している。今回は前述の理念の話しを運営推進会議に持ち出しご意見を聞いた。民生委員の方から誰でも入りやすいホームにして欲しいとの要望と、地域との連携は引受けると言う力強いお言葉を頂いた。「介護は絶対に人なりの言葉はいずみの皆さんのことです」と言うご家族からのご意見に注目が集まった。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は比較的良く訪問してくれている。家族会を年2回開いていて、家族会で伝達事項、行事、お願い事項をキチンとお伝えするようにしている。出席率は89%と非常に良いのも特徴である。新理念展開にあたり利用者さんのケアはご家族の力添えを頂きながら実践することを再確認することになっている。家族通信を発行してホームの状況をお知らせする他、個人の状況のお知らせ、請求など一式で毎月お送りし情報提供している。重度化が進む中で家族としても手伝いたい、一緒にケアしたいと言う有りがたい提案を頂いている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会では会議に出席し、日々の回覧板、夏祭り、防災訓練に参加している。花見では近くの団地公園に許可を得てお邪魔したり、展示会に参加したりしている。社長は講師として市のグループホームの研修などを行っている。ボランティアは手品、「歌声喫茶夢」、語り部、民謡、津軽三味線、日舞、フラダンス、お習字など来てくれている。実習生受け入れでは、県立福祉大学看護学部の学生、ヘルパー2級の実習生、中学校(2校)の体験学習など受け入れている。グループホームの地域会議のメンバーによるバザーは今も継続して実施し定着し、今回はバザーの売上を些少ながら民生委員経由で寄付させて頂いた。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、独自の理念を作成し、所定の場所に掲示している。カンファレンス、ホーム内研修等で確認し、徹底している。ホーム内研修でパーソン・センタード・ケアの学習会をおこなった。開設して10年となり新たな気持ちで理念を検討、見直をした。	○	理念を検討、見直をした。4月1日より実施予定である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿って、毎月スタッフが、月ごとの担当制で介護目標を掲示し日々、共有し実践に取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、日々の回覧板、夏祭り、健民運動会、定例総会、防災訓練などに参加している。お花見の時は近くの団地公園に許可得てお邪魔したり、展示会などに参加している。2年前よりホーム前にてバザーを開催している。近所の方々も当日のレクに参加されている。来年度は大きく地域に広げて開催の予定である。	○	今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価を実施しながら、ケアを客観的に見直し、日々の内容に生かしている。外部評価をケアの再生の場として真摯に受け止めている。自己評価を書くことで評価の意義を自覚し、自己のケアを振り返る機会を持ってもらうようにしている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所会議はテーマの決定が大切であるので、ホームの報告など通常の議題と併せ研修、見学などを交えた年間のテーマを決め実施している。年4回の活動を通して地元の保健福祉大学の見学・他グループホームの見学2ヶ所・介護理念の検討など視野を深めながら、グループホームのあるべき姿を意見交換した。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム協議会に加入し、積極的に研修等に参加している。また、管理者は「認知症研究会よこすか」を主宰し、グループホームスタッフのレベルアップに微力ながら貢献し、地元医師会等との交流も生かしている。必要に応じて市担当者と相談、指示を仰いでいる。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会を年2回開いていて、家族会で伝達事項、行事、お願い事項をキチンとお伝えするようにしている。出席率は89%と非常に良いのも特徴である。毎月「家族通信」を通して1ヶ月の生活を報告している。また、個別には介護計画の視点で、1ヶ月間の利用者の生活状況を具体的な書式で報告している。家族来所時は日々の記録を参照し自由にコメントしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情の窓口を明示し、家族が見て判るように掲示している。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は高く、20年度の異動はなし。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修計画を立て、興味関心や、希望、経験等で内容を定めるようにしている。ホーム内の研修はシリーズで受けたホーム外研修を順番にまとめ発表、全員で研鑽。その過程で各自、工夫し学びを深めスキルアップをはかった。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所運営推進会議での他施設ホームの見学会、市内交流研修やホーム内研修を外部にオープンにするなど試みなどスタッフへの良い刺激が行くよう工夫している。バザー開催時の意見交換と協力、およびスタッフの交流が良い刺激となっている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の訪問で関係作りをする、また、ホームの行事や誕生会等を利用して本人、ご家族ともに雰囲気になじんでもらう。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に介護し、される関係であり、共に過ごすなか人生の先輩として教えていただくことが多く、励ましをうけている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何が得意で、何を希望されているか、出来ることは何か、利用者が輝いて、充実して過ごされるものは何か、常に探り、利用者の持つ力を見出していく。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを通して、互いに意見交換し、利用者の心情を汲み取る努力と適切なアセスメントにより、本人、家族が望む計画が生まれる。今年度は介護計画を受け持ち制として、その人に沿うケア、望むケアを考え自己を振り返り学びを深めた。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね3ヶ月～6ヶ月の定期的な見直しと症状や状況の変化に応じた見直しを精力的に行い、現実にもマッチした計画を作成している。家族確認後、サインをもらっている。今後も受け持ち制は継続し、3ヶ月ごとに振り返り適切なアセスメントを行い、より良く穏やかに暮らせよう努力する事と、スタッフのスキルアップを図って行く。	○	今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中の空きベットを利用し、ショートステイを受け入れ、利用者の個人的事情に対応できている。中学生の福祉体験学習、県立大学看護学部、ヘルパー実習を受け入れている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人のかかりつけ医、ホームの提携訪問診療医、地域の病院など病状に応じて判断し、早めに適切に受診につなげている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設当初より、終末期まで一貫したケアを目指している旨を家族や訪問診療医に理解いただいている。ホーム内研修を重ね、数例の実践体験を有している。昨年99歳の方を看取った。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	当ホームの「個人情報保護法」に基づき、プライバシーや個人の尊厳保持に努めている。常に意識してケアをしている。カンファレンス等で、真の尊厳とは何か考え続けていることが重要と思う。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、謙虚に利用者に目を向けながら、そのペースを守りその人らしく暮らせるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事をはじめ常にメニューの希望を取り入れ、また季節を感じるメニューにしている。利用者の特技を生かして、職員とともに、調理、配食、片付けなど生き生きと行われている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の好み、希望を配慮して方法をきめているが、その都度意志を確認してから入浴となっている。利用者個々の状況にタイミングよくあうように工夫し楽しい入浴ができています。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力がうまく表現できるようレク、作業などで役割をになっていただき、脇から支援しながら、達成の充実感が抱けるよう日々の生活を「楽しさと喜び」にポイントをおいている。 ・希望にて個別ケアでドライブ、外出をしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢、重度化によりきびしい面もあるが、外出日を取り入れ希望に沿って支援している。個別ケアを取り入れている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤帯の時間まで玄関はオープンである。現在、自由に外に出ると言う方は居ない。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	家主の方に協力をいただいて、ホーム内で防災訓練を実施している。このビルはセキュリティが完備し消防への通報機もついている。。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は一日3回記載されている。ことに一定量の摂取が困難になっている方の場合には24時間の飲食量がすべて記録され、インアウトが管理されている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMをながし、草花、金魚、作品等で温かく、親しみやすい雰囲気である。また、物理的環境に制限があり、狭いのでスタッフは私語を慎み、笑顔を心がけ居心地がよい。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、スタッフともに居室はその人らしく、それぞれの品々が置かれており、それらが「自己の部屋」を表現している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	(有)ライフサポートいずみ ユウゲンガイシャ ライフサポートイズミ
所在地 (県・市町村名)	横須賀市金谷2-3-29
記入者名 (管理者)	小澤ミサヲ
記入日	平成 21年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・開設時より、独自の理念を作成し、所定の場所に掲示している。 ・カンファレンス、ホーム内研修等で確認し、徹底している ・ホーム内研修でパーソン・セントラード・ケアの学習会をおこなった。	○	・開設して10年となり新たな気持ちで理念を検討、見直をした。4月1日より実施予定である。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念に沿って、毎月スタッフが、月ごとの担当制で介護目標を掲示し日々、共有し実践に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・家族会で説明し、支持を得ている。 ・運営推進会議の場を生かして説明している。また見学者にはその都度説明している。	○	・家族会で家族の希望する介護をBS法で意見交換し話し合った。理念に取り入れていく方向である。 ・事業所運営推進会議の場で理念の見直しの経過を報告しご意見をいただき、実践に向けて動き始めている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・日々の挨拶以外に、コンビニ、商店等との交流が多い。玄関先の鉢植えなどが話題になることが多く、馴染みの方が増えている。行事のお知らせをし、参加していただく。玄関は開放。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会に加入し、日々の回覧板、夏祭り、健民運動会、定例総会、防災訓練などに参加している。 ・お花見の時は近くの団地公園に許可得てお邪魔したり、展示会などに参加している。 ・2年前よりホーム前にてバザーを開催している。近所の方々も当日のレクに参加されている。	○	・来年度は大きく地域に広げて開催の予定ある。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の相談、見学者の相談、町内会、民生委員等との相談。 ・町内での緊急時、車椅子の貸し出し、応急処置のお手伝い(看護師がいるので) ・バザーの収益を町内の老人会に寄付をさせていただいた。 		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で自己評価を実施しながら、ケアを客観的に見直し、日々の内容に生かしている。外部評価をケアの再生の場として真摯に受け止めている。 		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の活動を通して地元の保健福祉大学の見学・他グループホームの見学2ヶ所・介護理念の検討など視野を深めながら、グループホームのあるべき姿を意見交換した。 		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のグループホーム協議会に加入し、積極的に研修等に参加している。また、管理者は「認知症研究会よこすか」を主宰し、グループホームスタッフのレベルアップに微力ながら貢献し、地元医師会等との交流も生かしている。 ・必要に応じて市担当者と相談、指示を仰いでいる。 		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市および県の研修を通して、スタッフ各自が正しい理解をして日々のケアに生かしている。 ・事例を通してさらに理解を深めている。 		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待とは何か、細部にわたってスタッフが気づき、本来の尊厳を重視したケアの意味を再認識している。 ・虐待の研修に交代で常に参加、カンファレンスで報告し討議している。 ・事実発見時は家族にも連絡、対処している。 		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・面談を行いながら、書面を用いて十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会や行事の参加を通して、交流を深め、本音で語り合えるよう留意している。スタッフが耳にした家族の悩みも配慮しながら相談に応じている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月「家族通信」を通して1ヶ月の生活を報告している。また、個別には介護計画の視点で、1ヶ月間の利用者の生活状況を具体的な書式で報告している。 ・家族来所時は日々の記録を参照し自由にコメントしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・不満、苦情の窓口を明示し、家族が見て判るように掲示している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のカンファレンスでは、互いに議論し、「自分たちでホームを作っている」という雰囲気を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者の健康状況に合わせて、シフトや業務内容を工夫している。管理者はシフト外なのでいろいろの面をサポートしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・20年度の移動はなし。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	・ホーム内外の研修計画を立て、興味関心や、希望、経験等		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>で内容を定めるようにしている。 ・ホーム内の研修はシリーズで受けたホーム外研修を順番にまとめ発表、全員で研鑽。その過程で各自、工夫し学びを深めスキルアップをはかった。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・事業所運営推進会議での他施設ホームの見学会 ・市内交流研修やホーム内研修を外部にオープンにするなど試み、スタッフへの良い刺激が行くよう工夫している。 ・バザー開催時の意見交換と協力、およびスタッフの交流が良い刺激となっている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・カンファレンスや親睦会(納涼会、忘年会など)での工夫や個別のケアを工夫しており、ことにスタッフ間の人間関係には留意している。 ・勤務休みの希望は全面的に取り入れている。 ・5～7日のリフレッシュ休暇を常勤全員が取っている。</p>	○	・今後も長期のリフレッシュ休暇を取り入れていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・スタッフ個々の個性や特技を生かせるような役割付けや、経験年数に応じてグレードアップの研修が受けられるよう配慮している。 ・介護福祉士取得者1名 ・研修ではリーダー研修、実践者リーダー研修、介護指導者研修に受講している。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・和やかな雰囲気を作り、笑顔で傾聴し、安心感や満足のいかかわりに努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居時の事前訪問から、家族が話しやすい環境づくりに配慮し、面会場面等で話しかけるようにしている。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・相談を受けたら、まず、本人や家族が何を求めているかをよく話を聞きながら見極めること第一であり、その意向を大切にして相談に応じている。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前の訪問で関係作りをする、また、ホームの行事や誕生会等を利用して本人、ご家族ともに雰囲気になじんでもらう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・常に介護し、される関係であり、共に過ごすなか人生の先輩として教えていただくことが多く、励ましをうけています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・年間行事や誕生会に参加され利用者と共に家族も楽しまれている ・家族が利用者との外出に不安な時は付き添っている。	○	・家族会でボランティアしますと意見を多くいただき、スタッフからも家族、利用者が共に大切な時間を過ごせるようにと希望があった。今後、家族とともに行事等を考え工夫していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・利用者を挟み、家族間の悩みに接することが多いが、よく話を聞き、互いの立場を助言することで関係が和らぐことが多い。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・側でよく話に耳を傾け、過去の体験を共有したり、外出、散歩、家族との同行等で維持されている ・買い物では馴染みの店に行くようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・きめ細かく配慮し交流がもちやすいように、語り合えるようデイルームの席を工夫したり、作業やレクなどの組み合わせ等を考えている。散歩、外出も配慮している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・気軽に訪問していただき、行事等のボランティアもお願いしている。 ・市GHの認知症の理解を深める映画会などのお知らせをしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何が得意で、何を希望されているか、出来ることは何か、利用者が輝いて、充実して過ごされるものは何か、常に探り、利用者の持つ力を見出していく。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・グループホームの生活は過去の生活、暮らし方を基盤に培われるもので、馴染みの品々や生活習慣などを踏まえ、環境の変化を最小限にし、その人らしく暮らせるよう支援している。 ・個々のADL表、医療表情報書、介護計画等で共通の認識を持ち対応、支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・1～2回の試みで出来る出来ないを決めるのではなく、日々の表情、言動に注意し小さな変化に目を向け、その意味を探るよう努力していくことが利用者の力を引き出す鍵になる ・常に可能なこと、出来ることを見出していく。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・カンファレンスを通して、互いに意見交換し、利用者の心情を汲み取る努力と適切なアセスメントにより、本人、家族が望む計画が生まれる。 ・今年度は介護計画を受け持ち制として、その人に沿うケア、望むケアを考え自己を振り返り学びを深めた。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・おおむね3ヶ月～6ヶ月の定期的な見直しと症状や状況の変化に応じた見直しを精力的に行い、現実にもマッチした計画を作成している。・家族確認後、サインをもらっている。	○	・今後も受け持ち制は継続し、3ヶ月ごとに振り返り適切なアセスメントを行い、より良く穏やかに暮らせよう努力する事と、スタッフのスキルアップを図る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日のミニカンファレンスで意見交換し、ノートにも記載し共通の認識を持ちケアしている。 ・健康チェック表や経過記録をベースに、種々の記録を関連させて、互いの情報を分析して実践に反映させている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・入院中の空きベットを利用し、ショートステイを受け入れ、利用者の個人的事情に対応できている。 ・中学生の福祉体験学習、県立大学看護学部、ヘルパー実習を受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアによる習字、絵画、トールペイント、わらじ教室、懐メロ応援団、民謡グループ、マジック等に來ていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じてきめ細かに対応できている。(他事業所との連携など)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・年2回の地域会議やバザー時の、個人的かかわりなど双方から必要に応じて協働が進められている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個人のかかりつけ医、ホームの提携訪問診療医、地域の病院など病状に応じて判断し、速めに適切に受診につなげている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門の精神科の訪問診療を定期的に受け(月1回)適切に医療が勧められている。24時間対応で内科の訪問診療医との関係も良い。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・管理者が看護師であり、他に常勤職員が2名看護師である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時から、積極的に主治医と面談し、家族の意向を踏まえながら早期退院に向けて相談している。リハビリ等はその実際を見学してホームの生活につなげている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・開設当初より、終末期まで一貫したケアを目指している旨を家族や訪問診療医に理解いただいている。ホーム内研修を重ね、数例の実践体験を有している ・昨年も99歳の方を看取りました。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「終末期の希望書」や「安らかな看取りのために」まで一連の指針が出来ており、本人、家族を中心に据えたターミナルケアの展開を目指している。本人のケアと同等複雑な家族のケアが重要である。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・事前に家族と十分意見交換をし、本人にとって何がベターか、リスクは何かと考えている。サマリー等で情報提供を行っている。 ・ホームに転居されて来るときは事前に訪問し馴染みの関係を作り、入居後はあるがままに受け入れ、ホームに馴染まれることを最優先とする。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	当ホームの「個人情報保護方針」に基づき、プライバシーの保		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	当ホームの「個人情報保護法」に基づき、ファイバーや個人の尊厳保持に努めている ・常に意識してケアをしている。カンファレンス等で、真の尊厳とは何か考え続けていることが重要と思う。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・本人が考え、自己決定できるよう説明の仕方を工夫し「待つこと」の大切さを合意している。 ・日々の生活のなかで自己決定の場面を意識してケアしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・業務優先にならないよう、謙虚に利用者に目を向けながら、そのペースを守りその人らしく暮らせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・衣服購入では家族の協力を得て、暖色系(女性)に視点を当て、本人の好みなどを生かして選択している。汚れた衣服は速やかに交換するよう合意している。利用者の希望で美容師もえらばれている。 ・エレガンス療法(マニキュアや化粧)をとりいれている。外出時の洋服、装飾品選びの支援をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・行事をはじめ常にメニューの希望を取り入れ、また 季節を感じるメニューにしている。 ・利用者の特技を生かして、職員とともに、調理、配食、片付けなど生き生きと行われている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・家族の協力、ボランティアの協力により、外食を楽しんだりされている。行事のご馳走は希望をたずねながら、工夫しているが、おすしを希望されることが多い。 ・元旦には皆さんの希望で、お酒も飲みお祝いをしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・ホーム内研修の学びが定着し、個別排泄ケアが安定して実践されている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴の好み、希望を配慮して方法をきめているが、その都度 意志を確認してから入浴となっている。利用者個々の状況にタイミングよくあうように工夫し楽しい入浴ができています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・本人が自由にありのままに暮らせる環境の提供を基本にし、個別ケアを重視して居室やデイルームの工夫を行っている。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・個々の力がうまく表現できるようレク、作業などで役割をになっただき、脇から支援しながら、達成の充実感が抱けるよう日々の生活を「楽しさと喜び」にポイントをおいている。 ・希望にて個別ケアでドライブ、外出をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・数人ではあるが買い物時支払いをされたり、バザーなどのイベント時にお財布を持ち個々に買い物をされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・高齢、重度化によりきびしい面もあるが、外出日を取り入れ希望に沿い支援している。 ・個別ケアを取り入れている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・行事を取り入れ、ご家族の協力、ボランティアの協力等で希望にそった楽しい時間を得ている。 ・希望により個別外食など支援している。 ・夜の外出、クリスマスイルミネーションを観に出かけました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の電話は自由であり、手伝って手紙やFAXなどを活用している。俳句教室の輪も広がっている。		
----	--	--	--	--

	○家族や馴染みの人の訪問支援	・朝に家族や馴染みの人を訪問している。その第一は本人の希望		
--	----------------	-------------------------------	--	--

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・親しみやすいホームを日捐している、その第一基本は笑顔とやさしさである。玄関は開放されており、訪問時間も決めず居心地の良い環境を作っている。定期的に知人、友人が来訪されている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・はじめから身体拘束をする考えは持っていない。また日々のケアで身体拘束になるようなケアになっていないか常に点検している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夜勤帯の時間まで玄関はオープンである。現在、自由に外に出るという方は居ない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・チームワーク良く利用者の穏やかさ、心をつなぐことを大切に、見守り、レク、作業など日中のケアが重要である。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意の必要な物品が利用者に、即、危険を招くようなことが起こるわけではない。むしろ、利用者のまともな行動を危ないと思いついでいる場合にちぐはぐな対応をして利用者を危険に陥らせることがある。利用者の心の動きを良く見極めていくことでフィットしたケアにつながる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・日常に潜む危険とは何か、スタッフのかかわり方にも目を向けながら、室内の整理整頓、床の状態、浴室の滑り止め、窒息時の対応、誤薬、防火訓練など幅広い学習を実施している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時の対応は実技とともに全員学習し、応急手当は市消防局の実技研修を全員履修している。(マニュアルが作成されている)		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・家主の方に協力をいただいて、ホーム内で防災訓練を実施している。このビルはセキュリティが完備し消防への通報機もついている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・介護計画の形で提示されている。家族に説明し、家族の希望、意向を伺い、制限を加えることは最小限とし、ともにリスク回避の方向で対応策が話されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・健康チェック表を用い、一日2回バイタルチェックを実施している。この時間は心身両面の観察時間であり、異常の早期発見につなげている。連絡ノートの利用も有意義である。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服用されている薬剤の効能書はいつでも見れるようファイル化されている。また新しい薬の場合は管理者が諸注意を追加している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食事の配慮では毎朝食にヨーグルトをお付けし、朝食後の排泄誘導を徹底している。 ・希望で早朝に牛乳を飲用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・1日3回個人の力に応じた方法で実践されている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量は一日3回記載されている。ことに一定量の摂取が困難になっている方の場合には24時間の飲食量がすべて記録され、インアウトが管理されている。 ・必要に応じて補食している。		
	○感染症予防	・ホーム内の規定があり、それに沿って実施されている。ま		

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	た、ホーム内感染症が発症した場合を考慮して、ペーパータオル、理念のリースなど取り入れている。インフルエンザの予防注射が励行されている。 ・感染症の研修参加や、嗽い、手洗いを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・衛生管理チェック表が作成されており、定期的に清掃、食品管理がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周辺は家庭的に花の鉢植えとご家族ボランティアの花プランターがきれいである。玄関ドアには親しみ表札を提示してある。室内は花、金魚、壁飾りつけなどで暖かい雰囲気を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・BGMをながし、草花、金魚、作品等で温かく、親しみやすい雰囲気である。また、物理的環境に制限があり、狭いのでスタッフは私語を慎み、笑顔を心がけ居心地がよい ・利用者の様子に細心の注意をはらい変化に即、体応し居心地良い空間を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・生かされる空間が少ないので、工夫を重ねて住み易さを追求している ・利用者同志、訪問され共には過ごされてはいる。	○	介護保険制度の制定前に県のご意見を仰ぎながら作ったグループホームである。既成の建物にリフォームを加え、大きさや間取りに限界がある。市に移転を希望している旨、伝えてあるが、H21年3月迄は規制があるという望みが実現不能になっている。残念であうが次に期待している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家族、スタッフともに居室はその人らしく、それぞれの品々が置かれており、それらが「自己の部屋」を表現している。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>・オムツの後始末、部屋の換気に留意し、温度調節は乾湿計で客観的に実施している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・手すり、玄関先のスロープなどが設置されている。洗面所の位置や高さなど周囲の見守りを受けながら利用者が取り組めるつくりになっている。</p> <p>・体系に合わせてベットの高さを調節している。(一部切除)</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>・個々の能力、得意とする作業を取り入れ、ともに行動してその人らしい達成感が味わえるよう支援している。残存能力を引き出せるよう限りなく、ギブアップを言わない工夫をたゆまず続けたい。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>・玄関ポーチを利用して日向ぼっこや、花の観賞や手入れ、夏は玄関ポーチに家族ボランティアの家庭菜園でミニトマトの収穫を楽しんだ。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 観察重視した健康管理
- ・ 看取り介護の充実
- ・ ギブアップを言わない介護 (パーソン・センタード・ケア)
- ・ 皆で作る介護理念の実践 (利用者、家族、スタッフ、地域)